令和８年度　幼保小連携推進事業「授業と保育の相互参観（協議会）」

第2回協議会だより《西方部》

令和８年１０月３０日（金）１０:００～１２:００

【授業と保育の相互参観】

郡山市うねめ保育所

～うねめ保育所の保育参観について～

今回、１歳から５歳児のクラスまでの各クラスを参観させていただきました。どのクラスも、自分で遊びを見つけ、興味を持ったことにじっくりと取り組む姿が見られました。またその日の遊びだけでなく、前の日から続いている遊びを大切にしながらさらに遊びを広げたり、深めたりしている姿が印象的でした。子どもたちの興味や楽しんでいる姿を丁寧に捉え、その思いが広がるために子どもと保育者がいっしょに環境を作り上げていました。







【協議会内容】

① 保育参観より

・先生方の声掛けが控えめで、子どもたちが自分で考えながら主体的に遊んでいる姿が印象的でした。環境設定がとても工夫されており、子どもたちが遊びに集中できる環境が整っていると感じました。また、常に声をかけているのでなく、子ども達の様子を見守りながら、必要に応じて適切な声かけをされている点も素晴らしいと感じました。

・夏から育ててきたカブトムシが亡くなった後、「これからどうしようか」と子どもたちと一緒に考える姿が印象的でした。子どもたちの思いや気づきを大切にしながら、共に考え、保育を進めていることが伝わってきました。

・各クラスともこれまでの遊びの積み重ねやつながりがドキュメンテーションとして廊下や保育室内に掲示されており、子どもたちの経験が今日の遊びにつながっていることがよく分かりました。

② 遊びや環境を通して育まれる資質・能力について　就学に向けた幼保と小の情報交換について

・主体性を大切にして遊びが終われない、切り替えができないなどがあるのではと思いましたが、十分に遊んで満足することが、子ども自身の気持ちの切り替えにつながるのだと学びました。

・子どもの意見を大切に受け止め、自信につながるような経験をたくさん積み上げていきたいと思いました。







≪参加者からのアンケート≫

・子どもたちが主体的に遊びを決め、教諭はサポートすることは小学校でも実施できれば効果があると感じる。また、先生方との情報交換の場では、保護者対応の大変さという共通点や、時間の区切りをつけることに対する考え方やカリキュラムの違いについて意見を交わすことができ、幼保と小学校で、個人的に感じていた壁が無くなったように感じた。

・環境設定が素晴らしく、子ども達が好きな遊びに集中して取り組んでいる姿が印象的でした。